

1月1日現在の就職活動状況

2014年度
Vol. 2

就職活動スタートから1カ月あまり。学生の就職活動はどのように進んでいるのか、12月広報開始2年目の特徴は——。1月1日現在の日経就職ナビ・学生モニターの就職活動状況について調査を行い、前年同期調査と比較するなどして、年内の動きを分析した。

1. 就職戦線の見方

○先輩たちより「厳しくなる」との見方が大幅に減少

2. 1月1日現在のエントリー状況

○一人あたりのエントリー社数の平均は49.5社。前年同期より微増

3. セミナー・会社説明会への参加状況

○一人あたりの平均参加社数は25.0社。企業単独セミナーへの参加が増加

4. オンラインセミナーの視聴状況

○オンラインセミナー視聴経験者は39.6%

○平均視聴社数は、「ライブ中継」2.5社、「オンデマンド(録画)放送」2.2社

5. 自主的なOB・OG訪問

○OB・OG訪問経験者は全体の17.0%。年々減少

6. 選考試験への参加状況

○エントリーシートの平均提出社数は4.3社。前年同期、前々年同期より多い

○選考試験の平均受験社数は、筆記2.3社、面接1.9社、集団討論1.8社。

いずれも前年同期を上回る

7. 現時点での志望業界

○志望業界を「決めている」94.3%。志望業界1位は「銀行」、2位は「水産・食品」

8. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

○「将来性がある」「仕事内容が魅力的」などがトップ項目。安定志向も垣間見える

《調査概要》

調査対象：2014年3月卒業予定の全国の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）

回答数：1,655人（文系男子537人、文系女子503人、理系男子422人、理系女子193人）

調査方法：インターネット調査法

調査期間：2013年1月1日～7日

サンプリング：日経就職ナビ2014就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-5804-5567/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

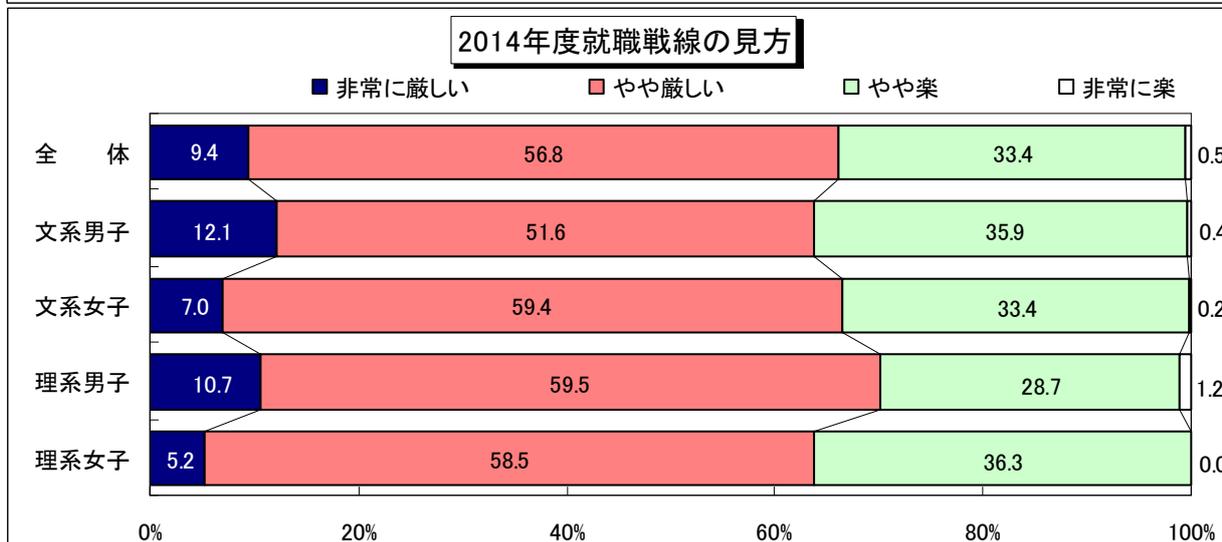
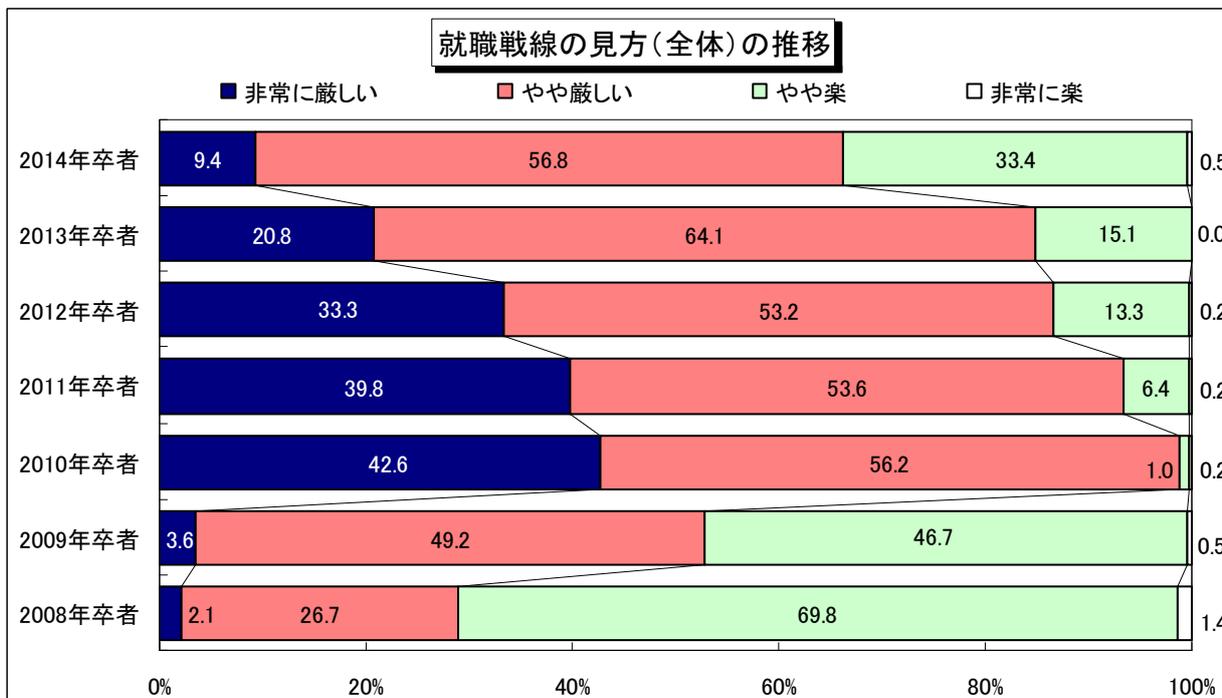
「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 就職戦線の見方

今年の就活生は、自分たちの就職戦線が1学年上の先輩たちに比べてどのようになると見ているのか、その見通しを聞いた。「非常に厳しい」「やや厳しい」の合計、つまり、より厳しくなると見ている人は66.2%と多数を占める。しかし、前年同期調査では84.9%と8割と超えていたことに比べれば、厳しいとの見方は急激に緩和されている。とりわけ「非常に厳しい」は20.8%から9.4%へと半減。逆に、「やや楽」が15.1%から33.4%へと倍増した。

学生の就職戦線の見方は就職環境（企業の採用意欲）を如実に表しており、脱・氷河期と言われた2008年卒者では「楽」との見方が7割を超えていた。リーマン・ショック後最初の就活生だった2010年卒者から「厳しい」に大きく舵を切り、その後は内定率の向上に伴って年々「厳しい」と見る学生は減少している。

今期は12月解禁2年目でスケジュール感が掴めているのと、早々にセミナーや選考などに参加して実際に企業と接している分（後述）、漠然とした不安感は薄く、その結果「厳しくなる」との見方が大幅に減少したのだと見られる。

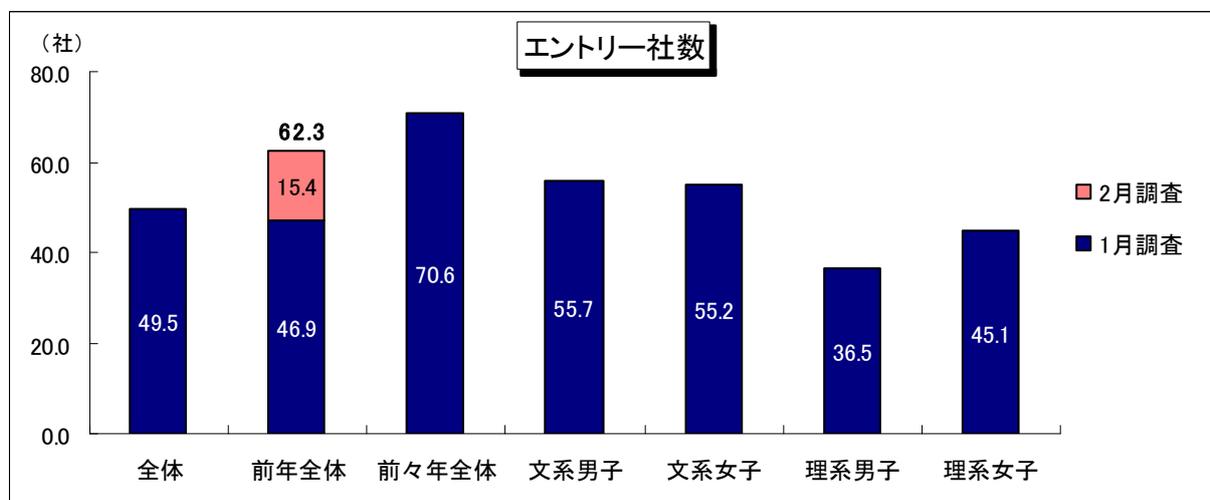


2. 1月1日現在のエントリー状況

就職活動スタートから約1カ月。今期の学生の活動量はどの程度の水準にあるのだろうか。

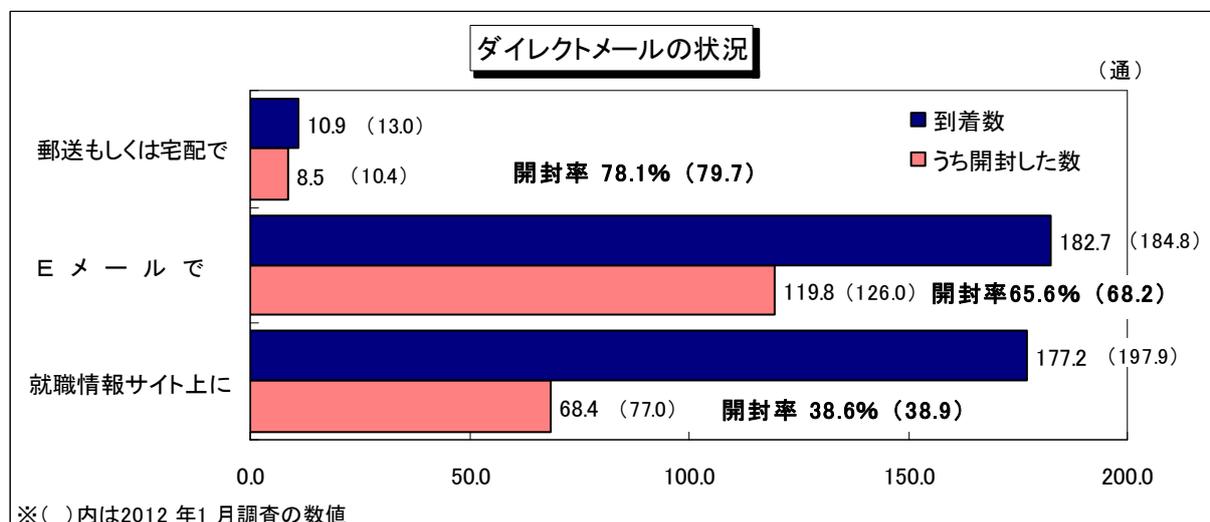
1月1日時点で企業に「エントリーした」学生は全体の98.1%と前年同期（97.8%）とほぼ同率。一人あたりのエントリー社数の平均は49.5社と、前年同期（46.9社）より微増した。昨年は12月解禁の初年度で様子見をしていた企業も少なくなかったが、今期は12月から自社セミナーを行うケースが増えるなど、前倒しの傾向が見受けられる。そうした企業側の積極的な姿勢に誘引され、学生のエントリーも昨年よりやや早いペースで進んでいるのだと見られる。ただ、昨年は年内のエントリーが急減したことに危機感を抱いた企業が1月に急遽学生へのアプローチを強化したが、それと大差ない水準という見方もできる。

一方、ダイレクトメールの到着数は、郵送・Eメールなど全形式の合計で平均370.7通。1日あたり10通あまり受け取っている計算になり、学生に見てもらふ工夫が必要となっている。



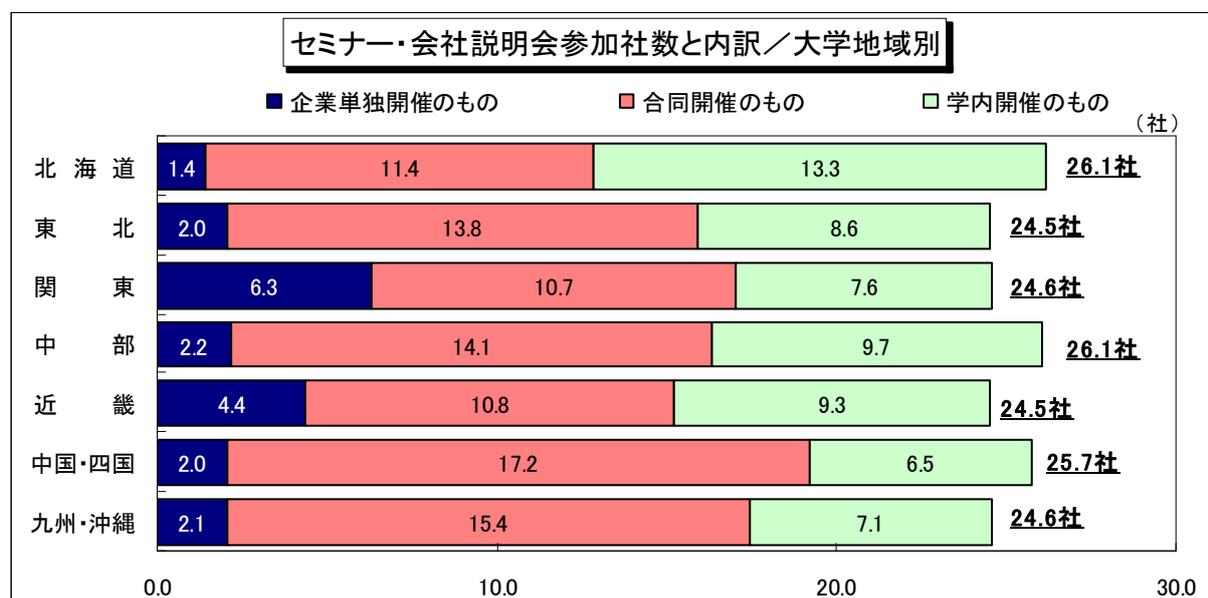
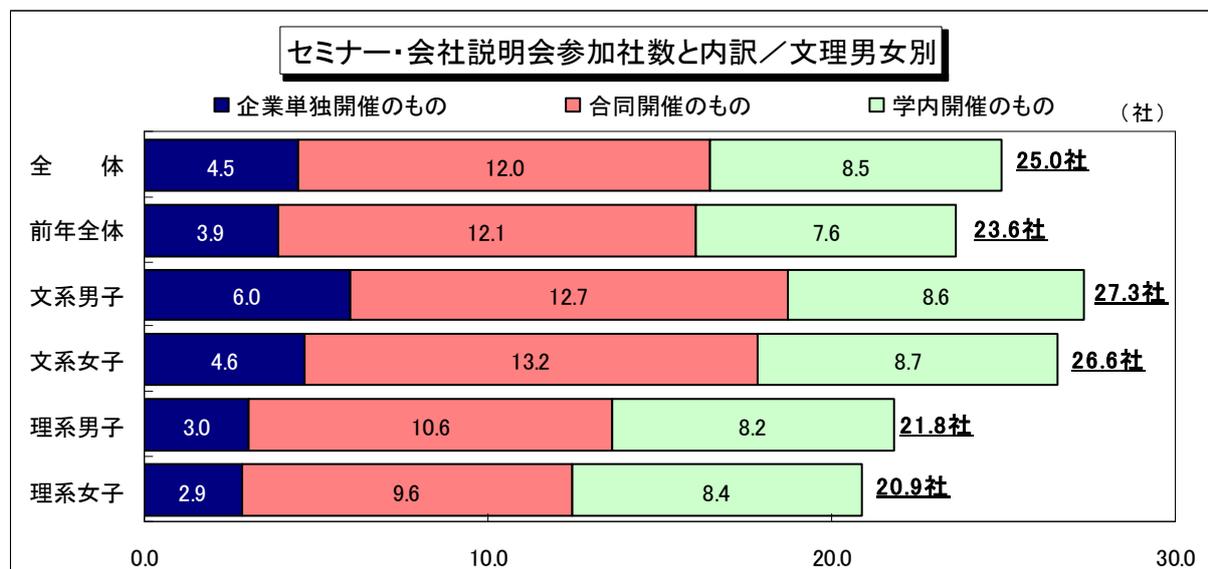
エントリー社数の内訳／平均

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職情報サイト経由でのエントリー／平均	36.4	39.6	41.3	27.1	34.5
企業ホームページからのエントリー／平均	12.3	15.1	13.1	9.0	9.4
その他のルートでのエントリー／平均	0.6	0.9	0.5	0.4	0.3



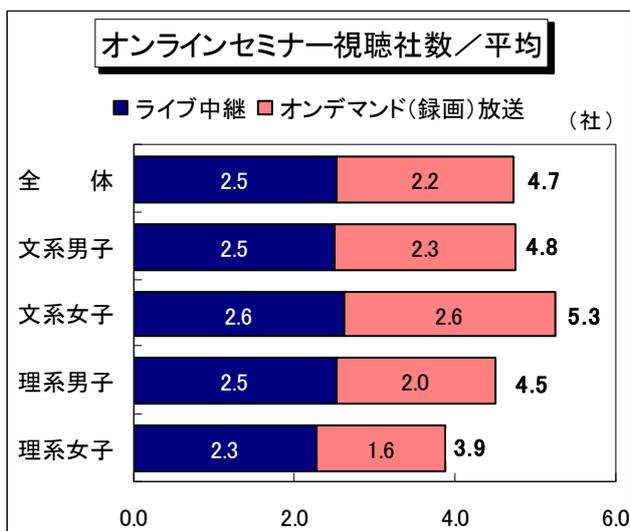
3. セミナー・会社説明会への参加状況

セミナー・会社説明会の平均参加社数は25.0社。前年同期より1.4社多く、企業単独開催のもの、学内開催のものが増えている。企業単独セミナーについては、企業セミナーは地域によって差が大きく、「関東」「近畿」といった大都市圏は6.3社、4.4社と多いが、他の地域はまだ1～2社にとどまり、早期の開催が大都市に集中している様子がうかがえる。



4. オンラインセミナーの視聴状況

インターネット上で開催されるオンラインセミナー（WEB セミナー）についても動向を調査した。オンラインセミナーを「視聴したことがある」と回答した学生は39.6%で、約4割が早くも視聴経験を持っている。平均視聴社数は、ライブ中継2.5社、オンデマンド（録画）放送2.2社で、ライブ中継がやや多かった。両タイプとも約半数はまだ1社にとどまり、一方で5社以上との回答が1割強。現段階では、多く視聴している層が平均を上げているという状況のようだ。



ライブ中継視聴社数の内訳

社数	(%)
1社	47.5
2社	22.4
3社	14.1
4社	3.0
5社以上	12.9

オンデマンド(録画)放送視聴社数の内訳

社数	(%)
1社	52.7
2社	22.7
3社	10.0
4社	3.7
5社以上	11.0

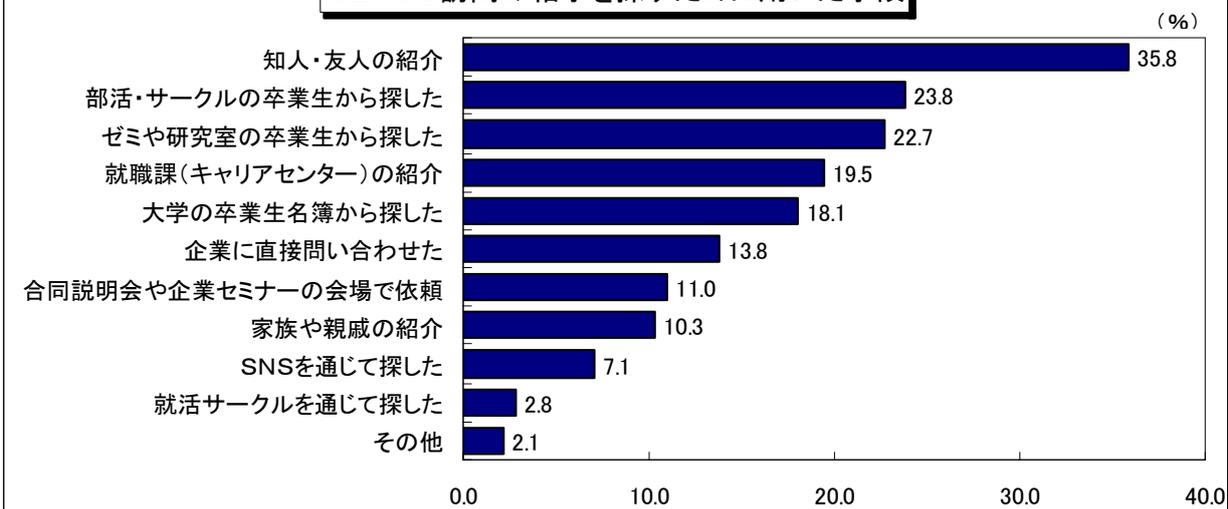
5. 自主的なOB・OG訪問

自分の方から依頼してOB・OG訪問を行った学生は17.0%。就職活動のスタート時期が遅くなった分、11月までの時期にOB・OG訪問をして情報を収集するのでは、との見方もあったが、逆にその割合は年々減少している。実際に企業で働く社員との交流が就職活動や企業選びに有効であることは間違いなく、企業側も意識して社員との接点をもつ工夫が必要かもしれない。

自主的なOB・OG訪問の有無

	全体	前年全体	前々年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
OB・OGを訪問した	17.0	18.3	19.9	23.5	15.7	12.8	11.9
OB・OGを訪問していない	83.0	81.7	80.1	76.5	84.3	87.2	88.1

OB・OG訪問の相手を探すために用いた手段



6. 選考試験への参加状況

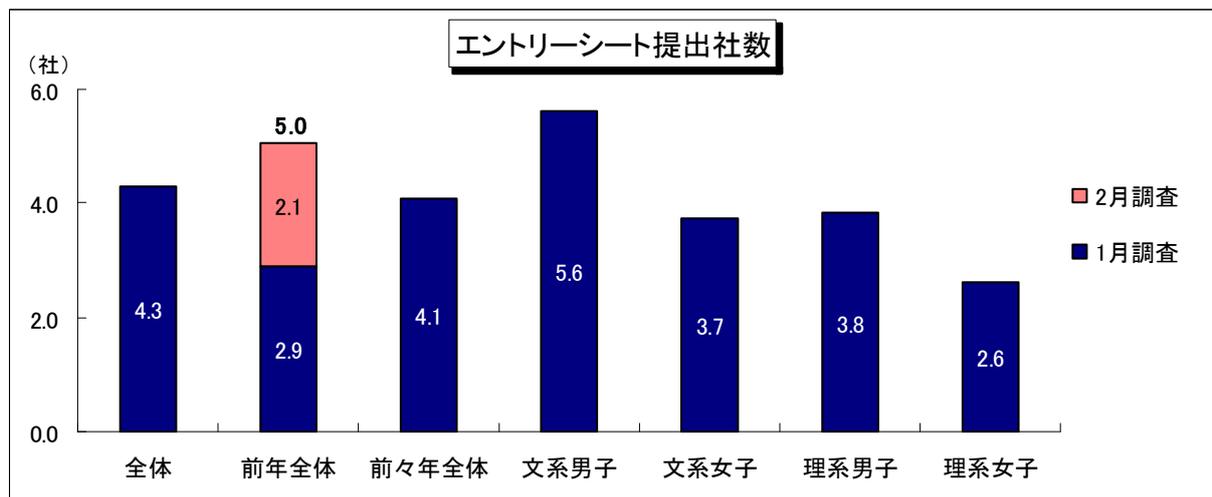
1月1日現在で、企業にエントリーシートを提出した学生は全体で32.2%。前年同期調査(33.0%)とほぼ同率だった。提出社数を見ると、平均4.3社で、前年の2.9社を1.4社上回り、さらに10月スタートだった前々年(2012年卒者)よりも多い。これは、過去2年間の学生に比べ今期の学生がとりわけアクティブであるというよりは、企業のエントリーシート受付開始が早まっていることが大きな要因と考えるほうが自然だろう。

同様に、選考試験を受けた学生の割合や平均受験社数とも前年を上回っているが、やはり企業の早い動きに学生が誘引されているのだろう。就職戦線の厳しさは緩和されると思っているものの、動きの早い企業の採用活動に呼応して早めに活動を進めているというのが、今期の学生の特徴のようだ。

エントリーシート提出の有無

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
提出した	32.2	33.0	36.5	31.8	26.3	34.2
提出していない	67.8	67.0	63.5	68.2	73.7	65.8

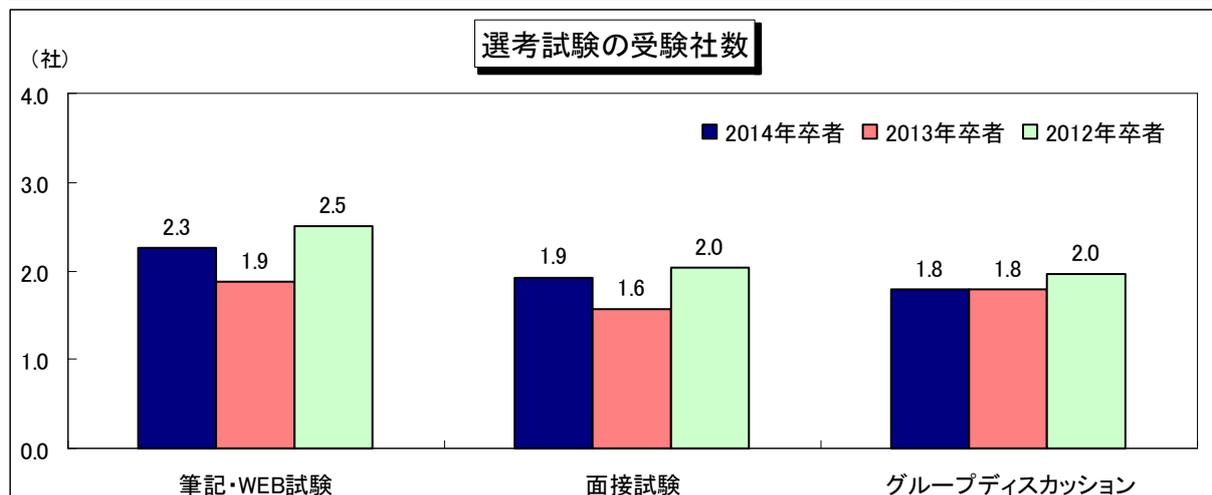
(%)



選考試験の受験状況

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
筆記・WEB試験を受験した	31.8	28.1	36.9	31.4	24.2	35.8
面接試験を受験した	11.6	7.6	15.3	12.7	7.8	6.7
グループディスカッションを受験した	12.3	7.9	16.9	11.5	8.1	10.4

(%)



7. 現時点での志望業界

1月1日の時点で志望業界を「決めている」学生は94.3%で、前年同期(92.6%)と同じく9割以上が年内に志望業界を決めていた。前回調査(11月下旬実施)では、「明確に決めている」との回答は18.7%だったから、就活開始1カ月で急速に決めている様子が分かる。先にも触れたように、12月1日以降、企業側がセミナーなど積極的な採用広報を進めていることで、学生側も早期に業界を絞りやすくなっているのだろう。

志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらったところ、「銀行」が28.0%で最も多く、以下「水産・食品」22.4%、「商社(総合)」20.0%と続く。志望業界は選考が進んでいく中で変化していくが、今のところ11月下旬調査との大きな変動は見られない。

志望業界(上位20業界)

※5つまで選択 (%)

全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	銀行 ① 28.0	銀行 39.2	銀行 38.7	電子・電機 30.4	医薬品・医療関連・化粧品 43.2
2	水産・食品 ② 22.4	商社(総合) 25.7	商社(総合) 25.2	素材・化学 25.2	水産・食品 43.2
3	商社(総合) ④ 20.0	運輸・倉庫 19.1	マスコミ 25.2	機械・プラントエンジニアリング 22.8	素材・化学 34.6
4	医薬品・医療関連・化粧品 ⑦ 17.6	保険 18.7	水産・食品 23.7	エネルギー 22.0	官公庁・団体 21.1
5	素材・化学 ⑥ 17.5	マスコミ 18.3	商社(専門) 20.5	情報・インターネットサービス 21.8	商社(専門) 15.7
6	マスコミ ③ 16.7	水産・食品 17.1	保険 19.7	精密機器・医療用機器 20.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 14.1
7	電子・電機 ⑤ 15.8	商社(専門) 17.1	ホテル・旅行 18.0	自動車・輸送用機器 19.3	情報・インターネットサービス 13.0
8	運輸・倉庫 ⑩ 14.8	建設・住宅・不動産 16.9	信用金庫・労働金庫・信用組合 16.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 19.1	マスコミ 12.4
9	商社(専門) 14.7	エネルギー 14.5	医薬品・医療関連・化粧品 16.3	医薬品・医療関連・化粧品 18.8	建設・住宅・不動産 10.8
10	情報・インターネットサービス ⑨ 14.4	調査・コンサルタント 13.7	運輸・倉庫 14.8	水産・食品 18.1	電子・電機 10.3
11	建設・住宅・不動産 14.1	素材・化学 12.4	建設・住宅・不動産 14.6	通信関連 15.8	精密機器・医療用機器 10.3
12	保険 ⑧ 13.5	情報・インターネットサービス 12.2	官公庁・団体 12.5	官公庁・団体 15.1	商社(総合) 10.3
	官公庁・団体 13.5	電子・電機 11.6	印刷・パッケージ 12.5	調査・コンサルタント 13.9	運輸・倉庫 8.6
14	エネルギー 13.4	信用金庫・労働金庫・信用組合 11.6	教育 11.2	運輸・倉庫 12.4	銀行 8.6
15	調査・コンサルタント 11.7	証券・投信・投資顧問 11.4	情報・インターネットサービス 10.8	鉄鋼・非鉄・金属製品 12.1	印刷・パッケージ 8.6
16	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 11.1	官公庁・団体 10.4	電子・電機 9.7	建設・住宅・不動産 11.6	エネルギー 8.1
17	自動車・輸送用機器 10.8	自動車・輸送用機器 9.8	素材・化学 9.5	商社(総合) 11.4	OA機器・家具・スポーツ・玩具他 8.1
18	機械・プラントエンジニアリング 9.9	ホテル・旅行 9.0	調査・コンサルタント 9.3	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 10.9	調査・コンサルタント 7.6
19	信用金庫・労働金庫・信用組合 9.6	通信関連 8.6	OA機器・家具・スポーツ・玩具他 9.1	銀行 10.6	教育 7.0
20	通信関連 9.4	医薬品・医療関連・化粧品 8.2	百貨店 7.4	マスコミ 6.9	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 6.5
	精密機器・医療用機器 9.4				農業・林業・鉱業 6.5

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

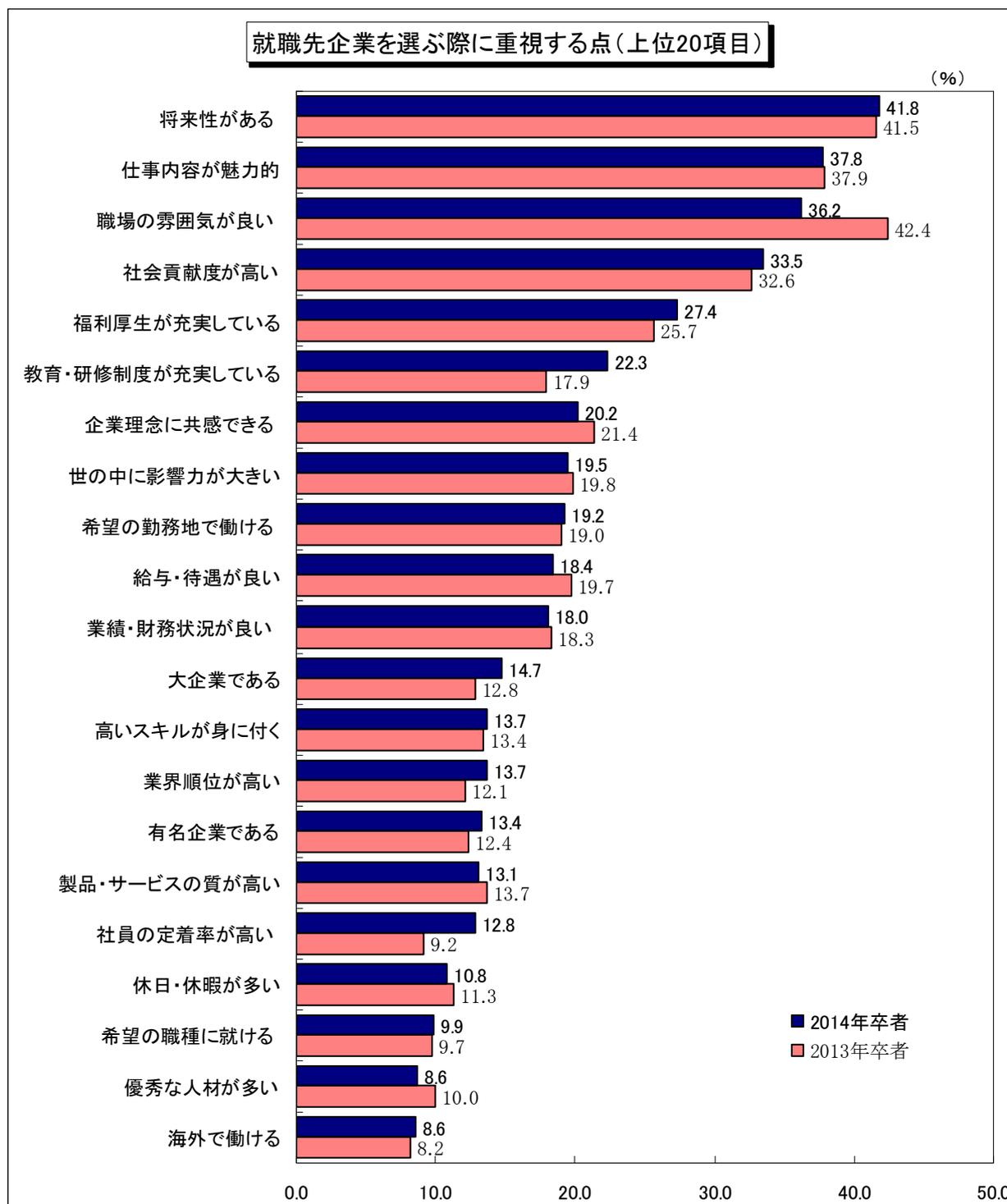
第1志望(上位5業界)

(%)

全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	銀行 11.0	銀行 17.3	銀行 14.6	電子・電機 10.4	水産・食品 17.3
2	水産・食品 8.7	運輸・倉庫 10.4	マスコミ 11.0	素材・化学 8.9	医薬品・医療関連・化粧品 14.6
3	マスコミ 7.1	マスコミ 8.2	水産・食品 9.7	水産・食品 7.7	建設・住宅・不動産 9.7
4	運輸・倉庫 7.0	商社(総合) 6.8	運輸・倉庫 5.5	医薬品・医療関連・化粧品 7.7	素材・化学 7.6
5	建設・住宅・不動産 5.8	水産・食品 5.4	保険 5.3	機械・プラントエンジニアリング 6.7	官公庁・団体 7.6
			ホテル・旅行 5.3		

8. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先企業を選ぶ際に重視する点を、31項目の選択肢の中から5つまで選んでもらった。最も多いのが「将来性がある」で41.8%と4割強。次いで「仕事内容が魅力的」37.8%が続く。前年1位だった「職場の雰囲気が良い」は3位となった。割合も42.4%から36.2%へと、6.2ポイント下がっている。一方、ポイントが上がった項目は、「教育・研修制度が充実している」「大企業である」「福利厚生が充実している」「業界順位が高い」など、安定志向が垣間見える。冒頭で確認した「就職戦線の見方」とあわせて考えると、安心して働ける場として様々な条件の整った企業に入れる、と思っている学生が多いのかもしれない。



■就職活動に関して思うこと

- 2、3月から本格化するかと思っていたが、既に筆記試験を課す企業があり気持ちが引き締まる思いである。また、多くのセミナーに参加した結果、ようやくやりたいことが見えてきた。 <文系男子>
- 採用予定数などを見ていると、昨年よりも新卒採用に意欲的な企業が増加しているように思うが、それでも一部の企業に応募が集中してしまう現状が変化するとは考えにくい。緊張感を持って活動を続けて行きたい。 <文系女子>
- 企業説明会で社員と話をするとうらやまが印象が変わることがある。説明会に参加する重要性をひしひしと感じた。 <理系男子>
- 12月開始2年目であるため、去年の先輩方から話を聞くことができ、就職活動の仕方を把握しやすいと思う。しかし、その分人事の方にも去年と同じだからわかってるよね…というような雰囲気がある方もいらっしゃる、プレッシャーを感じることもある。 <文系女子>
- 何をすればいいのかわからないまま1カ月が過ぎてしまった感じがあり、漠然とした不安があります。 <文系女子>
- なんとなくや、みんなが就職活動をするから就職活動をする、という人が多いように感じます。また、大手や有名企業の人気すごいです。 <理系女子>
- 企業独自の会社説明会が12月、1月から始まっているが、東京開催が多く、地方にいる身としては不便だなと感じる。 <理系男子>
- エントリーシート提出のお知らせが続々と来ていて、もうすぐ大変な時期に突入するのだなあと少し不安です。 <文系女子>
- 他の大学の人と話してみると、自分の大学の自分の学科は就活に対して非常にゆるい姿勢なんだなと思った。だからこそ、自分はしっかり就活を成功させたいと思う。 <文系男子>
- 周りと比較することではないが、友人に何社エントリーした?とか聞かれるととても焦ってしまいます。 <文系女子>
- たくさんの説明会に参加して、様々な会社の雰囲気が見られて参考になっている。そろそろ深く企業研究をしていきたいと思った。 <理系男子>
- 説明会などに参加していると、非常識な学生があまりに多く、驚きの連続だ。居眠りをしたり、他社の社名の入った筆記具を使ったり…また、馬鹿馬鹿しいと思えるようなことを信じている人も多い。このような人たちと自分が比べられるのか、と考えるとモチベーションが下がってしまう。 <文系女子>
- 説明会でたくさんの情報が入るが、それを整理する時間は意外とない。あと、いくら情報を仕入れても面接でそれを発揮できるかどうかはすべてがかかっているという印象。 <文系男子>
- 昨年度から企業の情報開示が12月スタートとなったが、今実際に経験してみて、もっと早いうちから企業情報を集めたかったと感じる。2月から次第にES提出を締め切る企業が増えてくるが、12月からのこの短い期間で企業・業界分析を満足いくまでやるのは難しい。やはり時間が足りないと感じた。 <文系女子>
- 私は研究と就職活動を両立していきたいと思いますが、まだ慣れないせい時間やりのやりくりなど大変です。WEBセミナーなどを活用して頑張ろうと思います。 <理系女子>
- 説明会が予約開始の日にもう満席になってしまっていた。研究室で実験をし、開始通知メールを見たのが夜になってしまったのが悪いが、やはりこれが現代の就活何だと実感した。みなスマホを使い早くクリックしたものの勝ちみたいな就活は疑問である。 <理系男子>
- 様々な企業の話聞き、そこで自分がどう働くのかをイメージするのは面白いと思っている。しかし12月ですら体力的に厳しい時が何回もあったが、1月以降はさらに厳しくなると考えると一抹の不安を感じる。 <文系男子>
- もうすでに疲れ始めていますが、セミナーで出会った仲間がいるからがんばろうと思えます。 <文系女子>